

／ ライフケアサポート情報誌 ／

こもれび

K O M O R E B I



特集

在宅医療の推進と
済生会鹿児島 地域包括ケアセンター・福祉センターの役割



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252
□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2025

vol.45

SUMMER

在宅医療推進と

済生会 鹿児島地域包括ケアセンター・

地域福祉センターの役割

済生会鹿児島地域福祉センター所長

吉田 紀子



酷暑が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年 2025 年は国の内外にとって節目の年です。

1 つ目として、国際社会は、今年、第二次世界大戦後 80 周年を迎えます。

わが国は唯一の核被爆国として核戦争の悲惨さと廃絶を訴えることのできる当事国ですが、戦争体験者も高齢化し少なくなってきました。

国際社会では益々国家や民族間の争い、対立や過度のナショナリズム等が過激化し、罪のない国民の命や生活が失われております。

日本被団協がノーベル平和賞を受賞しましたが、これを機に核兵器や戦争廃絶運動をどのようにして全世界に広げるかが喫緊の課題です。

2 つ目に、わが国では人口構造の節目の年とされます。団塊の世代がすべて後期高齢者となり、高齢者人口がピークに達します。あわせて生産年齢人口が減少し、幼年人口も減少し続けています。

介護需要の一層の増加に対して、2025 年度はサービス提供に携わる介護者は 243 万人必要とされますが、約 20 万人の人材確保が困難と見込まれており、2040 年頃までこの傾向が続くとされています。

この対応策として、高齢者も社会の支え手として定年後も可能な限り働くこと、企業における多様な働き方の推進（フレックスタイム制度や時短勤務の導入等）や労働環境の整備、DX 推進等発想の転換と可能な限りの工夫が求められています。

3 つ目に社会保障制度の持続可能性危機の節目です。

2025 年をピークに後期高齢者が増えるということは医療介護福祉供給の増加に繋がり、医療介護等の社会保障費が一層増嵩するということを意味します。

わが国の医療介護は保険制度ですから、後期高齢者人口増に伴い医療介護費（特に入院費）が増えるということは制度を支える国民の負担も増えることになり社会保障制度が破綻しかねません。そこで必要な医療等支援サービスを保ちながら国民の負担も軽減するためにはサービスの提供の仕方を工夫せねばなりません。（例えば軽い病状の入院や社会的入院を減らす等）。

そこで推奨されるのが「在宅医療」です。

在宅医療の推進の背景にはもう一つ国民の希望という理由があります。

人生の最後をどこで迎えたいかという国民の意識調査においても多くの国民が最後を自宅で迎えたいと答えておられます。

自宅で最後まで過ごせない方も高齢者施設に入居・入所すれば孤独ではない住環境で必要に応じて在宅医療や介護を受けながら尊厳を保ち自分らしい人生を送ることができるため、施設を希望される方々も多くなっています。

このような理由から、わが国ではこれまで地域包括ケア体制の構築が推進され、医療面では在宅医療が推進されているのです。

在宅医療とは入院して受ける医療や外来に通院して受ける医療に対して、自分の住んでいるところ（「自宅」または「高齢者施設やサービス付き高齢者住宅等」）に定期訪問診療や往診という形で出前してもらって受ける医療のことです。

在宅医療が提供される場（拠点）は「自宅」と「高齢者施設やサービス付き高齢者住宅等」の2つがあります。勿論重症の病気や急病の時などは入院医療を受けることが重要ですから、それに必要な病床は医療機関に確保されており入院することができますが、在宅医療は日常的に訪問診療や往診で対応できる軽度・中等度慢性疾患等については勿論のこと、終末期医療についても、ご本人の希望に沿って、制約のない「自宅」または「高齢者福祉施設等」で医療をうけながら、必要時には 24 時間・365 日の巡回型介護・看護体制のもとで、QOL のより高い暮らしをし、在宅死も可能というメリットがあります。

今後のわが国の在宅医療は入院医療に引けを取らないレベルまで医療の量・質を一層高め、地域全体を大きな病棟とみなし、在宅においても 24 時間安心して過ごすことができ、看取りまでできる体制を充実させる方向を目指しています。

このように在宅医療は上手な活用によって今後の高齢者の終末期の QOL 向上に貢献する手段と考えられます。

国民の理解と活用が進み、さらに在宅医療を実施する医療機関や医師が増えることが求められています。本号では「在宅医療」に焦点をあて、在宅医療への理解を深めるとともに、在宅医療支援拠点としての済生会鹿児島地域包括ケアセンター（鹿児島病院と鹿児島地域福祉センター）の役割についてご紹介する内容となっております。

高齢期には多くの方々が複数の疾患を持ち、要介護、要生活支援が必要な状態となられます。

「自宅」で在宅医療と介護サービスを受けながら生活されるか、家族がおられない等の場合は「高齢者福祉施設やサービス付き高齢者住宅等」に入居・入所されることにより、在宅医療、訪問看護、訪問介護等を受けながら尊厳ある安心な人生を完結することが可能です。

済生会鹿児島地域福祉センターは鹿児島病院と密に連携しながら2つの拠点のいずれにお住まいの方に対しても必要なサービスを提供できる体制を整えております。

お気軽にお問合せやご見学（要予約）をしていただきますようご案内申し上げます。

また、長い人生を頑張ってこられた高齢者の方々のより良い人生の完結を支援する介護福祉サービスの仕事に関心をお持ちの方がおられましたら、是非ご一報くださいますようお願い申し上げます。

在宅医療の推進と 済生会鹿児島

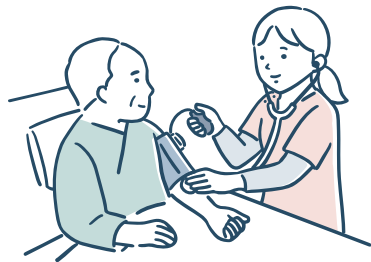
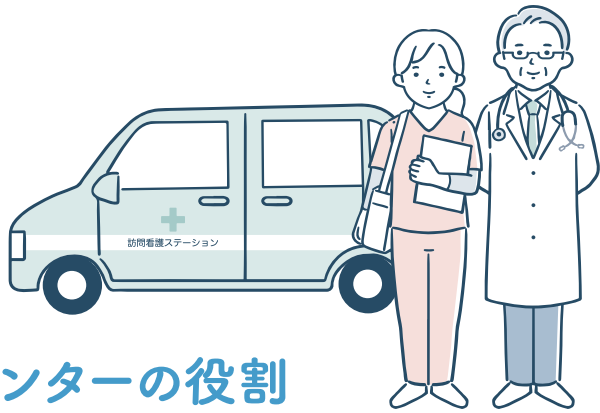
地域包括ケアセンター・福祉センターの役割

地域包括ケアシステムの中で在宅医療が果たすべき役割と、医療・介護・福祉の連携

1. 在宅医療

皆さん、在宅医療という言葉聞いた事はあるでしょうか？

在宅医療とは…在宅（自宅、高齢者施設やサービス付き高齢者住宅等）で受ける医療の事を指します。また在宅医療は具体的に往診と訪問診療の2つに分けられ、その違いは、計画的かつ定期的に行われる医療を訪問診療、臨時的に行われる医療の事を往診といいます。



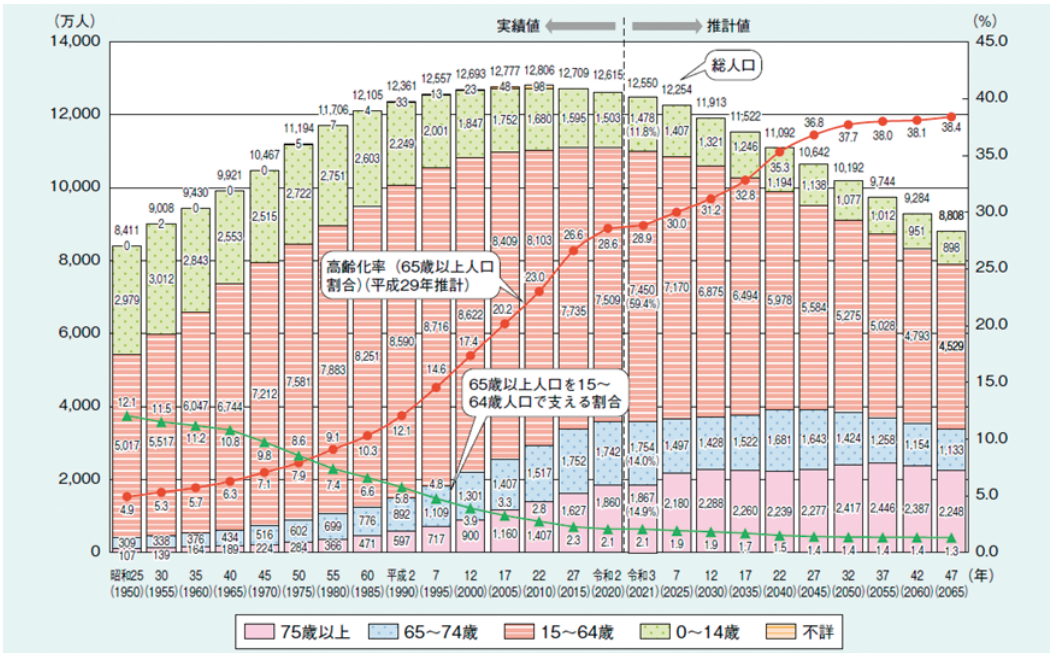
在宅医療の種類

訪問診療・往診	医師が定期的・計画的な診療(月2～4回)により、在宅患者の病状管理を行う。容態悪化時には随時訪問し診療も行う。
訪問看護	訪問看護師の定期的・計画的な訪問により患者の主に医療的な処置、ケアを行う。その業務範囲は非常に幅広いが、家事援助や単なるマッサージなどは他職種が担うものとされており、業務外(報酬対象外)とされている。
訪問歯科診療	歯科医が在宅患者を訪問し歯科診療を行う。訪問診療車に診療所と遜色ない装備を擁し、在宅でも十分な歯科診療を提供できる歯科診療所も存在する。
訪問歯科衛生指導	歯科衛生士が在宅患者を訪問し歯科衛生指導を行う。単なる歯磨き指導に留まらず、食事摂取を継続していくための様々な助言指導も行う。
訪問リハビリテーション	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が定期的・計画的に在宅患者を訪問し、必要なリハビリテーションを提供する。単なる機能訓練に留まらず、在宅生活を維持し生活の質を向上することを重視する。
訪問薬剤指導	薬剤師が在宅患者を訪問し、調剤や医材の供給はもちろんのこと、処方されている薬剤についてその正しい服薬法等について指導助言する。また残薬整理や副作用状況、在宅患者個々の状況に合わせての服薬支援方法の提案や医師や他職種へフィードバックを行う。医師の往診に同行し処方に対して薬学的な視点からフィードバックを行う。
訪問栄養指導	栄養士が在宅患者を訪問し、療養上必要な栄養・食事について助言指導する。

2. 在宅医療が推進されるわけ

いわゆる団塊の世代が全員75歳以上になる今年は、高齢化がさらに進むことから2025年問題と呼ばれています。特に医療現場では後期高齢者の増加を背景に今後、在宅医療などの需要がさらに高まると考えられています。

【図1：後期高齢者の増加(＝医療需要の増加)】

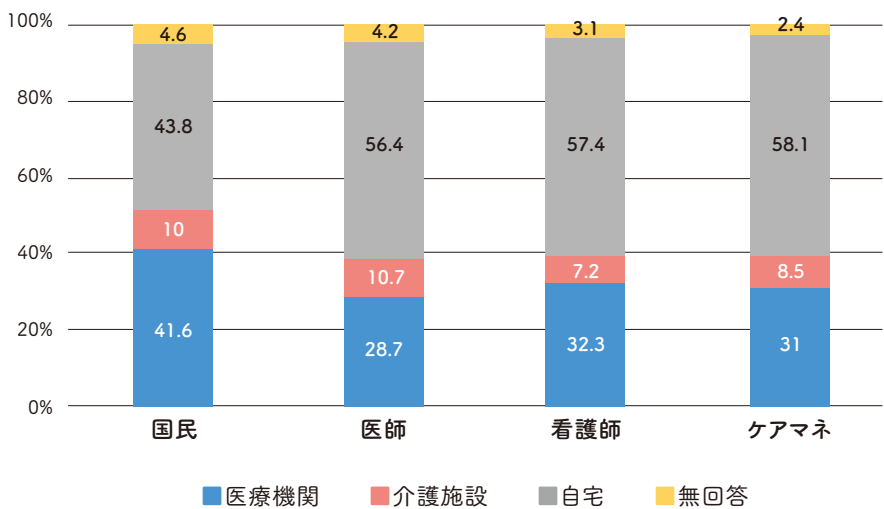


なぜ在宅医療などの需要が高まっていくのかというと、これ以上入院病床を増やせないという社会保障持続可能性の問題もありますが、一番の要因は「自宅で最期まで生活したい」といった皆さんの希望です。厚生労働省の資料によると約半数の方が自宅での療養を望まれています。(図2)

これからの日本において年々高齢化が進んでいく中、老後や晩年をどのように過ごすかということを考える事は重要です。また、身体が思うように動かなくなったり、病気になって治療が必要でも、最期は住み慣れた家で自分らしく暮らしたいと望む方が最も多い結果でした。

しかしながら、身寄りがない独居高齢者など自宅で晩年を暮らすことが困難な方も多くなっており、このような場合は自宅の代わりに高齢者施設やサービス付き高齢者住宅等の利用が必要となります。

【図2：最期を迎えたい場所】



※人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査参照

3. 在宅医療への期待と課題

治療や診療の拠点を病院ではなく在宅（自宅、サービス付き高齢者住宅、高齢者施設等）とすることで、住み慣れた自宅や施設等で最期を迎えたいといった想いを実現可能にするのが在宅医療です。



4. 地域包括ケアシステムの構築（住み慣れた地域での医療・介護・福祉の連携）

国は2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築の実現を掲げています。地域包括ケアシステムとは住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムの事をいいます。在宅医療はこの地域包括ケアシステムの医療の部分の大きな役割を担っています。

地域医療は医療機関における外来医療、入院医療のほかに在宅医療という形で提供されます。

在宅医療提供が可能な場（拠点）は自宅のほか介護福祉施設、サービス付き高齢者住宅、高齢者の集合住宅や老人ホーム等であり、在宅医療が受けられるのは自宅居住者か高齢者施設や高齢者住宅等の入居者です。

国民の多くが人生最後まで住み慣れた自宅で暮らしたいと願っておられますが、独居高齢者で身寄りの無い場合などは自宅での看取りが困難なことも指摘されています。

独居高齢者等が虚弱となり自宅で一人で生活することが出来ない場合には生活支援の場としてケアハウス、サービス付き高齢者住宅や介護施設等を利用できます。これらの場（拠点）で受ける医療は、医療提供という側面からは在宅医療と位置付けられています。

済生会鹿児島地域福祉センターと済生会鹿児島病院から構成されている鹿児島地域包括ケアセンターでは上記2つの拠点における在宅医療の提供を支援しています。自宅生活の方々の場合は、病院から在宅医療を、地域福祉センターから訪問看護や訪問介護サービスを提供します。

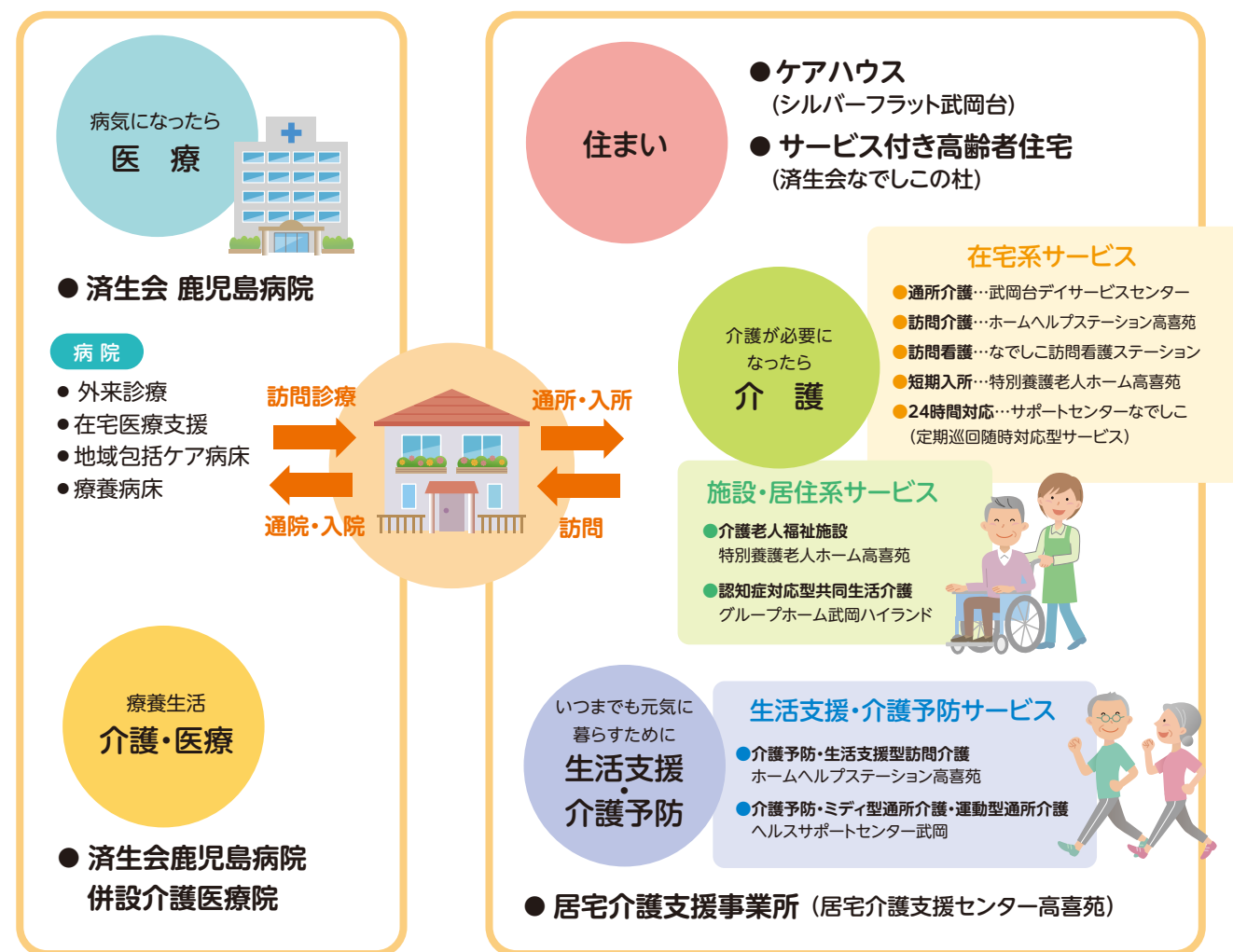
一方で、サービス付き高齢者住宅やケアハウスに入居された方で医療が必要な場合は済生会鹿児島病院等から在宅医療（訪問診療や往診）をうけることができ、介護・看護が必要な場合は済生会鹿児島地域福祉センターから訪問介護等・看護等の在宅サービスを受けることができます。特別養護老人ホーム等では付設の介護サービスと合わせて病院からの在宅医療を受けることができます。

施設等の拠点については虚弱度や要介護度に応じて、虚弱な場合はケアハウス、軽度・中等度の場合はサービス付き高齢者住宅やグループホーム、重度の場合は特別養護老人ホームへと順次住み替えをして、必要なサービスを受けるとともに、医療が必要な場合は鹿児島病院等連携医療機関から在宅医療サービスを受けて暮らすことが可能です。

これらの拠点は、自宅ではないものの、高齢者集合住宅的環境で仲間たちと仲良く暮らしながら在宅医療や在宅介護等を活用し、尊厳を保ちながら安心して人生最後まで自分らしい生活がおくれる場となっています。

このように、済生会鹿児島地域福祉センターと鹿児島病院とは、密な連携のもと、地域包括ケアシステムの一翼として、自宅生活の方々と高齢者施設等で生活しておられる方々いづれに対しても、医療・介護・福祉の一体的サービスを提供し、「地域の方々が可能な限り住み慣れた地域で、すみなれた生活の場で、最期まで尊厳が保たれ自分らしく人生を全うできる」支援をめざして頑張っています。お問い合わせやご見学（要予約）も受け付けております。

【図3】
～住み慣れた地域で自分らしく暮らすために～
済生会鹿児島地域包括ケアセンター



この特集を目にした皆さんやそのご家族が最期を迎える事を考えた時、そして自宅での生活を継続したいと考えられた時、または自宅での最後が困難としてサービス付き高齢者住宅や高齢者施設等に入居・入所された時、在宅生活の要である在宅医療の知識は「最期まで自分らしく人生を全うする」、その実現に役立つはずです。

5. 在宅療養支援（訪問診療）病院（済生会鹿児島病院）

済生会鹿児島病院は3つの機能で皆さんを医療で支援しています。

一つ目は、病気にならないように予防すること。具体的には健診事業、予防接種の事業で、海外に長期滞在される方のためのトラベラーズ外来も行っています。

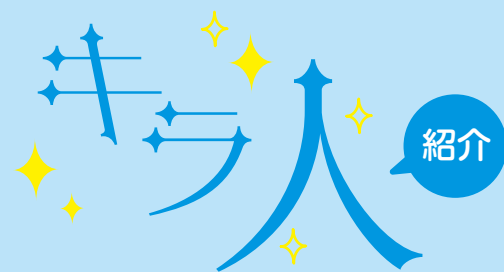
二つ目は、なってしまった病気が悪化しないようにすることです。いわゆる外来に通院していただく医療です。

三つ目は、外来に通院できなくなった方にこちらから訪問する訪問診療です。現在おおよそ100名の方々に訪問診療を行っています。

特に重視しているのは悪化の傾向にいかにか早く気づくことができるかという点です。悪化に早く気づければ、当院は40床の地域包括ケア病床があるので軽症のうちに早めに入院して早めに治療し、早めに退院することができます。

済生会鹿児島地域包括ケアセンターとも連携し医療を通してご利用者の生活を支援しています。

同じ済生会グループであるメリットを活かして安心感を提供します。



紹介

居宅介護支援センター高喜苑
介護支援専門員

佐藤 清貴

プロフィール

出身：鹿児島市

干支：巳年

血液型：A型

座右の銘：やればできる!!



期待の新人ケアマネージャー登場!

ケアマネージャーになるには、5年以上の実務経験と介護支援分野と保険医療福祉サービス分野から出題される試験の合格が必要とされます。

最近の合格率は20%～30%で推移しており、資格を取得するには難易度が高いと言われています。

そのような中、佐藤さんは介護福祉士としての実務を重ね、今年ケアマネージャーに合格し居高喜苑へ入職した期待の職員です。

Q ケアマネージャーとしての抱負をお聞かせください。

A 今まで介護職員として働いてきましたが、これからはケアマネとして利用者の望む生活に近づけられるように地域の特色や制度、その他のサービスなどを学び、日々吸収しながら、私自身成長していきたいと思います。

Q 佐藤さんの趣味はなんですか？

A ランニングが趣味です。

Q ランニングを始めたきっかけは？

A ダイエットを目的に始めました。

Q ダイエットは成功しましたか？

A はい。23kgの減量に成功しました。

まず、食事を見直しました。野菜を

中心とした食事に変更し、併せて体に負担の少ないウォーキングをはじめました。3ヶ月程度である程度体重が落ちましたが、そこからなかなか落ちなくなり、徐々にランニングに切り替えていきました。ランニングをはじめて5年になります。

Q ダイエットの目標が達成できて今の趣味に繋がっているんですね。

A はい。今は毎日1時間のランニングを欠かさずしており、「鹿児島マラソン」「菜の花マラソン」「宮崎の青島太平洋マラソン」に毎年エントリーして参加しています。ダイエットをきっかけで始めたランニングですが、今では毎日走らないと気が済まない生活を送っています。

佐藤さんは、自分で決めた事を一生懸命頑張る姿や謙虚な姿勢がとてもフレッシュで、私達も頑張る力をもらっています。

きっとダイエット成功やマラソンを走り切る姿勢もここにあるのでしょうね。

これからは、ケアマネージャーとして、利用者様と同じ目線で目標に向かって伴走してくれることを期待しています。

BEFORE



AFTER



KOMOREBI TOPICS

こもれびトピックス

済生会九州ブロック

親善ソフトボール大会に参加して



武岡台デイサービスセンター

令和7年6月8日、佐賀県唐津市で開催された「済生会九州ブロック親善ソフトボール大会」に、済生会鹿児島病院の職員の皆さんと共に参加しました。このソフトボール大会は47回目を迎え、九州の済生会各施設事業所の親睦の場となっています。

私たちは、大会前日にバスで鹿児島を出発し約6時間かけて唐津に向かいました。到着後は、九州各県から集まったチームとの懇親会が行われ、チームの紹介ムービーの上映や、他県の済生会職員との再会など、明日は敵となる相手とのつかの間の楽しいひと時に、前夜から大いに盛り上がりました。

わがチーム（済生会鹿児島地域包括ケアセンター）の紹介は・・・

「打たせて捕る!」が、キャッチコピーの、病院事務長&ピッチャーの二刀流エース!!

福祉センターからの期待の大部介護福祉士、その名も「眠れる獅子!!」と、笑いを交えた紹介を行いました。

大会当日の試合の結果は「打たせても、なかなか捕れない・・・」、「獅子はまだ眠かった・・・」・・・と、2敗の結果となりましたが、昨年よりも良い試合展開に「今回はもう少し出来たはずだ!」と、悔しさも少し残る手応えのある内容となりました。

医師や看護師、臨床工学技士、臨床放射線技師、他医療系スタッフと福祉施設事業所の介護福祉士等多様な職種が一丸となって勝利を目指した今回の経験は、日々の業務や連携においても、とても良い影響を与えると感じました。

また来年も、皆さんと一緒にプレーできることを楽しみにしています。



あじさいとアイスクリーム



済生会なでしこの杜

梅雨真ただ中蒸し暑さのある6月中旬、入居者様と日置市東市来町の洗川アジサイ園にドライブに行ってきました。前日まで降っていた雨も上がり、青、紫、桃、白と色とりどり、鮮やかな紫陽花を眺めることができました。

紫陽花の花言葉は、「移り気」「浮気」「辛抱強さ」「無常」などがあります。移り気は、紫陽花の花は咲いてから段々と色を変える特性が由来とされています。また、紫陽花は色によって異なる花言葉を持つことも特徴で、青は「辛抱強い愛情」、ピンクは「元気な女性」、白は「寛容」といった意味があります。一方では「和気あいあい」「家族」「団らん」など、ポジティブな花言葉もあります。

この日は、車中で冷たいアイスクリームを食べながらのドライブで、施設内ではなかなか見ることの少ない、皆様の童心に帰ったかのようなニコニコ笑顔を写真に残すこともできました。



施設の中に花のある風景



シルバーフラット武岡台

シルバーフラット武岡台は、軽費老人ホーム（ケアハウス）です。食事の提供や温泉入浴の環境を整え、管理人といえる職員が相談等にお答えします。

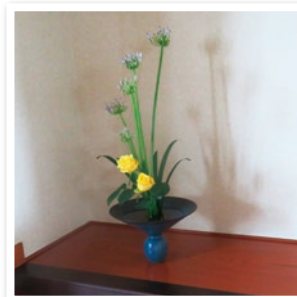
ご入居の皆様は、ご自宅で生活するのが少し大変になってきたな、一人での生活に不安を感じている、父や母の一人の生活が心配で……。といわれてご入居された方々です。

とはいえ、皆様は入居前、お仕事や家庭のことを一生懸命されていた時に培われた様々な「力」をお持ちです。

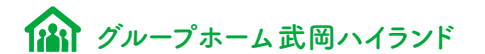
現在、シルバーフラット武岡台では、入居者様が花を育て、そして花を活けてくださっています。その花々に癒されている方々がいます。

・・・なんて、すばらしい環境でしょう。お花の心得をお持ちの方、我流でお花を生ける方、傍観者・・・それぞれがそれぞれの立場で、花のある生活を楽しまれています。なにより、我流の私が一番楽しんでいます。

シルバーフラット武岡台は、自然環境が豊かな中にあります。どうぞ、お越しください。



認知症研修 基本の「ン」を開催



グループホーム 武岡ハイランド

済生会鹿児島地域福祉センター教育研修委員会では、定期的に職員の資質向上を目的とした研修会を実施しています。ここ数年は感染症予防対策の為集合での研修を中止していましたが、昨年から黒野先生を講師に迎え「認知症研修」を全体研修として再開しています。

同法人の済生会鹿児島病院の黒野明日嗣先生は、鹿児島県内でも認知症の第一人者といわれる先生です。身近におられる黒野先生からは、日常的に「認知症」という疾病の事やその患者さんへの対応について助言を頂く機会が多くあります。これまでの研修では、認知症基本の「キ」、認知症基本の「ホ」を開催しました。進みゆく高齢化社会の中で認知症は切り離しては考えられない課題です。私たち医療看護介護等の従事者が基本とされる認知症ケアとその考え方を丁寧に細やかにお話しくださいました。

今回の研修は、「キホン」シリーズの最終コマの認知症基本の「ン」についてお話しいただきました。認知症ケアの本質は、認知症の方のBPSD（介護者が困る行動）を、結果（起こっている行動）として捕らわれるのではなく、どうしてそういう行動に至ったのかに着目して「考える」、「推定する」、その人を「知ろう」とする努力であるということ。認知症の方は常にチャレンジしているという捉え方「チャレンジング行動」という考え方を学びました。私たちが注目すべきは、BPSDではなく、先行する事柄（原因）を考え、BPSDへの移行を回避することだと教えていただきました。

介護者が考える（推定する）ことができるようになると、対策も先手を打てるようになり、認知症を患うご本人も楽になるということを学びました。

日々を穏やかに過ごしていただくために、また、過ごしていくために、研修会での学びを現場に活かしていきたいと思います。



済生会鹿児島地域福祉センターと一緒に働きましょう！（職員募集）

済生会鹿児島地域福祉センターには、高齢者の入所施設や住まい、介護保険の通所事業所や訪問事業所があります。鹿児島市内、地域の高齢者の皆様やそのご家族が安心して生活できるよう、地域包括ケアシステムの礎となるべく、多職種の職員が業務にあたっています。介護職員はもとより、看護職員・生活相談員・ケアマネジャーの職員や資格が無くても働ける介助員さんなど、多くの事業所で職員を募集しています。ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

「問い合わせ先：済生会鹿児島地域福祉センター TEL 099-284-8250 担当：森」



〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

済生会鹿児島地域包括ケアセンター 済生会鹿児島病院・かごしま介護医療院

〒892-0831 鹿児島市南林寺町1-11

TEL 099-223-0101 FAX 099-227-4790

済生会鹿児島地域包括ケアセンター 済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8250 FAX 099-284-8252

特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 FAX 099-284-8252

シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 FAX 099-283-6871

済生会なでしこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 FAX 099-283-6876

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 FAX 099-283-4733

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 FAX 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡

〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 FAX 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 FAX 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問看護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 FAX 099-283-6876

編集 後記

8月、まだまだ猛暑が続く中、皆様熱中症対策に取り組まれていることと思います。

7月に実施された参議院選挙も静かに終わりをづけ、選挙戦の騒動もどこ吹く風・・・。

「生活の質が向上し、気温はある程度で落ち着き、暮らしやすい日々をおくることができれば」と、ひとり願うところです。

今回の「こもれび」のテーマは、「在宅医療の推進・・・」を取り上げました。地域包括ケアが整備され、これからの私たちが、安心して医療を受けることができる住みやすい社会になることを重ねて願います。

